

## 平成 23 年度 九州大学 2 次試験後期日程 (数学問題)120 分

工学部 3 月 12 日 数学 I・II・III・A・B・C

1  $a > 0, b > 0, 0 < \alpha < 1, 0 < \beta < 1$  として, 以下の問いに答えよ.

- (1) 初項  $a_1 = a$  と漸化式  $a_{n+1} = \alpha a_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) で定義された数列  $\{a_n\}$  がある. このとき,  $x_n = \log_{10} a_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) により定まる数列  $\{x_n\}$  の一般項を  $n, \alpha, a$  を用いて表せ.
- (2) 初項  $b_1 = b$  と漸化式  $b_{n+1} = \beta b_n^2$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) で定義された数列  $\{b_n\}$  がある. このとき,  $y_n = \log_{10} b_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) により定まる数列  $\{y_n\}$  の一般項を  $n, \beta, b$  を用いて表せ.
- (3)  $a = b = 1$  のとき,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{x_{n+1}}{y_{n+1}} = 0$  を証明せよ.

2 以下の問いに答えよ.

- (1) 原点のまわりの角  $\theta$  の回転移動を表す行列を  $R_\theta$  とする. 回転  $R_\theta$  によって点  $(2, 1)$  に移されるものと点  $(a, b)$  を求めよ.
- (2) 原点を通り, 傾き  $\tan \theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) の直線を  $l$  とする. また, 点  $P(x, y)$  を直線  $l$  に関して対称移動した点を  $P'(x', y')$  とする. このとき,  $x'$  と  $y'$  を  $x, y$  および  $\theta$  を用いて表し, この移動を表す行列  $A_\theta$  を求めよ.
- (3)  $x$  軸に関する対称移動を表す行列を  $B$  とする. このとき,  $R_\theta B R_\theta^{-1} = A_\theta$  となることを示せ.
- (4)  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}, 0 < \beta < \frac{\pi}{2}, 0 < \gamma < \frac{\pi}{2}$  とする. 2 つの行列の積  $A_\alpha A_\beta$  はある角の回転移動を表すことを示せ. また 3 つの行列の積  $A_\alpha A_\beta A_\gamma$  によって表される移動は決して回転移動を表さないことを示せ.

3 座標平面上の楕円  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$  ( $a > b > 0$ ) について, 以下の問いに答えよ.

- (1)  $x$  座標が小さい方の焦点を  $F$  とし,  $F$  から正の方向へ向かう半直線を始線とする極座標  $(r, \theta)$  で表された楕円の極方程式  $r = f(\theta)$  を求めよ.
- (2) 座標平面上の原点  $O(0, 0)$  と楕円上の 2 点  $P_1, P_2$  について, 線分  $OP_1$  と線分  $OP_2$  とが互いに直交する位置にあるとする. 線分  $OP_1$  および  $OP_2$  の長さをそれぞれ  $r_1, r_2$  とするとき,  $\frac{1}{r_1^2} + \frac{1}{r_2^2}$  の値は定数となることを示せ.

4 関数  $f(x) = -x \sin x$  ( $0 \leq x \leq \pi$ ) について、以下の問いに答えよ。

- (1)  $0 < x < \pi$  の範囲で、方程式  $f''(x) = 0$  がただ 1 つの解  $x = a$  をもつことを示せ。
- (2) 上の (1) で存在が示された  $a$  に対して、 $a < x < \pi$  の範囲で、方程式  $f'(x) = -1$  がただ 1 つの解  $x = b$  をもつことを示し、その値  $b$  を求めよ。また、曲線  $y = f(x)$  上の点  $(b, f(b))$  における法線  $m$  の方程式を求めよ。
- (3) 上の (2) で求めた法線  $m$  と曲線  $y = f(x)$  および  $y$  軸とで囲まれた図形を、 $x$  軸のまわりに回転させてできる回転体の体積  $V$  を求めよ。

5 50 円と 100 円の硬貨が 3 枚ずつの計 6 枚と、さいころが 1 個ある。これらの硬貨 6 枚とさいころ 1 個を同時に投げて、表が出た硬貨の合計額にさいころの目の数  $n$  から 2 を引いた数の絶対値  $|n - 2|$  をかけ合わせた賞金をもらえるものとする。たとえば、硬貨 6 枚すべてが表となり、さいころの目が 6 となった場合、表が出た硬貨の合計額 450 円を 4 倍した 1800 円を賞金としてもらえる。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) 賞金を全くもらえない確率を求めよ。
- (2) もらえる賞金が 500 円以上となる確率を求めよ。
- (3) もらえる賞金の期待値を求めよ。

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad a_1 = a, a_{n+1} = \alpha a_n \text{ より} \quad a_n = a\alpha^{n-1}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad x_n &= \log_{10} a_n = \log_{10} a\alpha^{n-1} \\ &= \log_{10} a + (n-1)\log_{10} \alpha \end{aligned}$$

$$(2) \quad b_{n+1} = \beta b_n^2 \text{ より, } \beta b_{n+1} = (\beta b_n)^2 \text{ であるから}$$

$$\log_{10} \beta b_{n+1} = 2 \log_{10} \beta b_n \quad \text{ゆえに} \quad \log_{10} \beta b_n = 2^{n-1} \log_{10} \beta b_1$$

$$\text{したがって} \quad \log_{10} \beta + \log_{10} b_n = 2^{n-1}(\log_{10} \beta + \log_{10} b_1)$$

$$b_1 = b, y_n = \log_{10} b_n \text{ であるから}$$

$$y_n = (2^{n-1} - 1) \log_{10} \beta + 2^{n-1} \log_{10} b$$

$$(3) \quad a = b = 1 \text{ のとき, (1), (2) の結果から}$$

$$x_n = (n-1) \log_{10} \alpha, \quad y_n = (2^{n-1} - 1) \log_{10} \beta$$

$$0 < \alpha < 1, 0 < \beta < 1 \text{ より, } \log_{10} \alpha < 0, \log_{10} \beta < 0 \text{ であるから}$$

$$\frac{x_{n+1}}{y_{n+1}} = \frac{n}{2^n - 1} \cdot \frac{\log_{10} \alpha}{\log_{10} \beta} > 0$$

$$n \geq 2 \text{ のとき, 二項定理により}$$

$$2^n > {}_n C_0 + {}_n C_2 = 1 + \frac{n(n-1)}{2} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{n}{2^n - 1} < \frac{2}{n-1}$$

$$\text{したがって} \quad 0 < \frac{x_{n+1}}{y_{n+1}} < \frac{2}{n-1} \cdot \frac{\log_{10} \alpha}{\log_{10} \beta}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2}{n-1} = 0 \text{ であるから, はさみうちの原理により}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{x_{n+1}}{y_{n+1}} = 0$$

2 (1)  $R_\theta = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$  より,  $R_{-\theta} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^{-1}$  であるから

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} &= R_{-\theta} \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2 \cos \theta + \sin \theta \\ -2 \sin \theta + \cos \theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

よって  $(a, b) = (2 \cos \theta + \sin \theta, -2 \sin \theta + \cos \theta)$

(2)  $l$  の方向ベクトルを  $\vec{v} = \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}$ , 法線ベクトルを  $\vec{n} = \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix}$  と

おくと,  $A_\theta \vec{v} = \vec{v}$ ,  $A_\theta \vec{n} = -\vec{n}$  であるから

$$A_\theta \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}$$

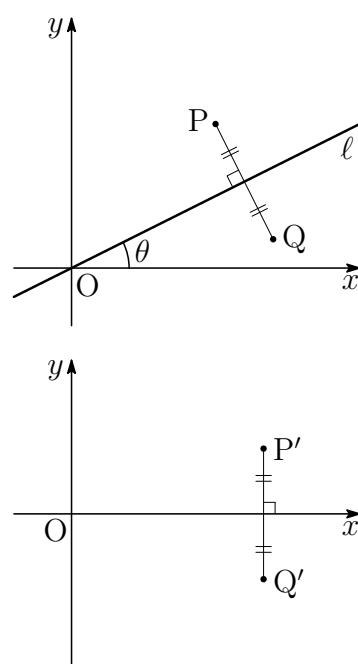
$$\begin{aligned} \text{よって } A_\theta &= \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^{-1} \\ &= \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos 2\theta & \sin 2\theta \\ \sin 2\theta & -\cos 2\theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

(3) 原点を通り,  $x$  軸の正の向きとなす角が  $\theta$  である直線  $l$  に関する対称移動を表す変換を  $h$  とする.

右の図のように, 直線  $l$  に関して点  $P$  と対称な点を  $Q$  とする. また, 点  $P, Q$  を原点の周りに  $-\theta$  だけ回転した点を, それぞれ  $P', Q'$  とする. このとき,  $P'$  と  $Q'$  は  $x$  軸に関して対称である.

よって, 原点の周りに  $-\theta$  だけ回転する変換を  $f$ ,  $x$  軸に関して対称移動する変換を  $g$  とすると, 原点の周りに  $\theta$  だけ回転する変換は  $f^{-1}$  であるから, 変換  $h$  は  $f^{-1} \circ (g \circ f)$  で表される. ゆえに,  $h$  の表す行列は  $A_\theta$  であるから

$$R_\theta B R_{-\theta} = A_\theta$$



別解 点  $(x, y)$  を  $x$  軸に関する対称移動をした点を  $(x', y')$  とすると

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ -y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad \text{ゆえに} \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$$

実際に,  $R_\theta B R_{-\theta}$  を求めると

$$\begin{aligned} R_\theta B R_{-\theta} &= \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos^2 \theta - \sin^2 \theta & 2 \sin \theta \cos \theta \\ 2 \sin \theta \cos \theta & \sin^2 \theta - \cos^2 \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos 2\theta & \sin 2\theta \\ \sin 2\theta & -\cos 2\theta \end{pmatrix} = A_\theta \end{aligned}$$

(4) (2) の結果から

$$\begin{aligned} A_\alpha A_\beta &= \begin{pmatrix} \cos 2\alpha & \sin 2\alpha \\ \sin 2\alpha & -\cos 2\alpha \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos 2\beta & \sin 2\beta \\ \sin 2\beta & -\cos 2\beta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos 2(\alpha - \beta) & -\sin 2(\alpha - \beta) \\ \sin 2(\alpha - \beta) & \cos 2(\alpha - \beta) \end{pmatrix} \end{aligned}$$

よって,  $A_\alpha A_\beta$  は, 原点のまわりの角  $2(\alpha - \beta)$  の回転移動を表す.

次に, (1), (2) の結果より,  $\det R_\theta = 1$ ,  $\det A_\theta = -1$  であるから

$$\det(A_\alpha A_\beta A_\gamma) = \det A_\alpha \det A_\beta \det A_\gamma = (-1) \cdot (-1) \cdot (-1) = -1$$

したがって  $\det(A_\alpha A_\beta A_\gamma) \neq 1$

よって,  $A_\alpha A_\beta A_\gamma$  によって表される移動は決して回転移動を表さない.

3 (1) 楕円  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$  ( $a > b > 0$ )

の離心率  $e$  は

$$e = \frac{\sqrt{a^2 - b^2}}{a}$$

焦点  $F(-ae, 0)$  の準線  $l$  は

$$x = -\frac{a}{e}$$

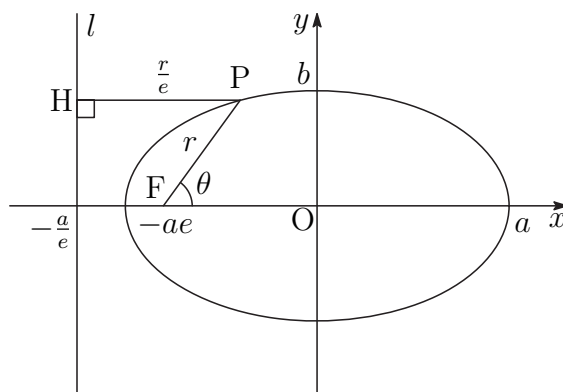
$F$  から  $l$  までの距離  $\lambda$  は

$$\lambda = -ae - \left(-\frac{a}{e}\right) = \frac{a}{e}(1 - e^2) = \frac{a}{e} \left(1 - \frac{a^2 - b^2}{a^2}\right) = \frac{b^2}{ae}$$

2次曲線について,  $\frac{PF}{PH} = e$  であるから,  $PF = r$  より,  $PH = \frac{r}{e}$

右上の図から,  $PH = \lambda + PF \cos \theta$  であるから  $\frac{r}{e} = \frac{b^2}{ae} + r \cos \theta$

よって 
$$r = \frac{\frac{b^2}{a}}{1 - e \cos \theta} = \frac{b^2}{a - \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta}$$



(2)  $OP_1$  の傾きを  $m$  とすると ( $m \neq 0$ ),  $P_1$  は

$$\text{楕円 } \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1, \quad \text{直線 } y = mx$$

の交点である. 上2式から  $y$  を消去すると

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{m^2 x^2}{b^2} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad x^2 = \frac{1}{\frac{1}{a^2} + \frac{m^2}{b^2}}, \quad y^2 = \frac{m^2}{\frac{1}{a^2} + \frac{m^2}{b^2}}$$

$$\text{よって } x^2 + y^2 = \frac{1 + m^2}{\frac{1}{a^2} + \frac{m^2}{b^2}} \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{r_1^2} = \frac{1}{x^2 + y^2} = \frac{\frac{1}{a^2} + \frac{m^2}{b^2}}{1 + m^2} \quad \dots \textcircled{1}$$

$OP_2$  は  $OP_1$  に垂直であるから, ①の  $m$  を  $-\frac{1}{m}$  に置き換えて

$$\frac{1}{r_2^2} = \frac{\frac{1}{a^2} + \frac{1}{m^2 b^2}}{1 + \frac{1}{m^2}} = \frac{\frac{m^2}{a^2} + \frac{1}{b^2}}{m^2 + 1}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より} \quad \frac{1}{r_1^2} + \frac{1}{r_2^2} = \frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} \quad \dots (*)$$

また,  $P_1$  および  $P_2$  が  $x$  軸または  $y$  軸上にあるときも (\*) は成立する.

4 (1)  $f(x) = -x \sin x$  より  $f'(x) = -\sin x - x \cos x$   
 $f''(x) = -2 \cos x + x \sin x$

$g(x) = f''(x)$  ( $0 \leq x \leq \pi$ ) とおくと  $g(x) = -2 \cos x + x \sin x$   
 $g'(x) = 3 \sin x + x \cos x$

$g(0) = -2$ ,  $g\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{\pi}{2}$ ,  $\frac{\pi}{2} \leq x \leq \pi$  において  $g(x) > 0$

$0 < x < \frac{\pi}{2}$  において  $g'(x) > 0$  より,  $g(x)$  は  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  で単調増加.

ゆえに,  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  で, 方程式  $g(x) = 0$  がただ1つの解  $x = a$  をもつ.

よって,  $0 < x < \pi$  で, 方程式  $f''(x) = 0$  はただ1つの解  $x = a$  をもつ.

(2)  $h(x) = f'(x) + 1$  ( $a \leq x \leq \pi$ ) とおくと  $h'(x) = f''(x)$

(1)の結果から,  $a < x < \pi$  で,  $f''(x) > 0$  である.

$a < x < \pi$  で  $h'(x) > 0$  であるから,  $h(x)$  は単調増加.

$$h\left(\frac{\pi}{2}\right) = f'\left(\frac{\pi}{2}\right) + 1 = -\sin \frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{2} \cos \frac{\pi}{2} + 1 = 0$$

ゆえに,  $a \leq x \leq \pi$  で, 方程式  $h(x) = 0$  がただ1つの解  $x = \frac{\pi}{2}$  をもつ.

よって,  $a \leq x \leq \pi$  で, 方程式  $f'(x) = -1$  がただ1つの解  $x = \frac{\pi}{2}$  をもつ.

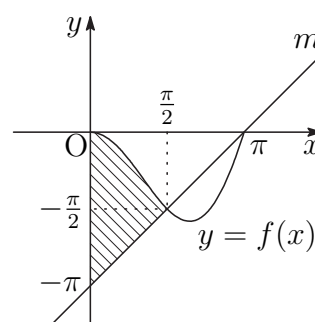
$b = \frac{\pi}{2}$  であるから  $f\left(\frac{\pi}{2}\right) = -\frac{\pi}{2}$ ,  $f'\left(\frac{\pi}{2}\right) = -1$

法線  $m$  は点  $\left(\frac{\pi}{2}, -\frac{\pi}{2}\right)$  を通り, 傾き1の直線であるから

$$y - \left(-\frac{\pi}{2}\right) = 1 \left(x - \frac{\pi}{2}\right) \quad \text{すなわち} \quad y = x - \pi$$

(3) 右の図の斜線部分を  $x$  軸のまわりに1回転させた回転体の体積が  $V$  であるから

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \{(x - \pi)^2 - (x \sin x)^2\} dx \\ &= \pi \left[ \frac{1}{3}(x - \pi)^3 - \frac{x^3}{6} \right. \\ &\quad \left. + \frac{2x^2 - 1}{8} \sin 2x + \frac{x}{4} \cos 2x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{\pi^2}{48} (13\pi^2 - 6) \end{aligned}$$



- 5 (1) 表が出た 50 円と 100 円硬貨をそれぞれ  $a$  枚,  $b$  枚とすると ( $0 \leq a, b \leq 3$ ),  
もらえる賞金は

$$(50a + 100b)|n - 2| \text{ (円)}$$

したがって, 賞金を全くもらえないのは,

$$a = b = 0 \text{ または } n = 2$$

よって, 求める確率は

$$\left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 + \frac{1}{6} - \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \frac{1}{6} = \frac{1}{64} + \frac{1}{6} - \frac{1}{64} \cdot \frac{1}{6} = \frac{23}{128}$$

- (2) 表が出た硬貨の合計金額を  $X$  円とすると,  $X = 50(a + 2b)$  であるから

$X = 0$ のとき	$(a, b) = (0, 0)$ の 1 通り
$X = 50$ のとき	$(a, b) = (1, 0)$ の 3 通り
$X = 100$ のとき	$(a, b) = (2, 0), (0, 1)$ の $3 + 3 = 6$ 通り
$X = 150$ のとき	$(a, b) = (3, 0), (1, 1)$ の $1 + 3 \cdot 3 = 10$ 通り
$X = 200$ のとき	$(a, b) = (2, 1), (0, 2)$ の $3 \cdot 3 + 3 = 12$ 通り
$X = 250$ のとき	$(a, b) = (3, 1), (1, 2)$ の $3 + 3 \cdot 3 = 12$ 通り
$X = 300$ のとき	$(a, b) = (2, 2), (0, 3)$ の $3 \cdot 3 + 1 = 10$ 通り
$X = 350$ のとき	$(a, b) = (3, 1), (1, 3)$ の $3 + 3 = 6$ 通り
$X = 400$ のとき	$(a, b) = (2, 3)$ の 3 通り
$X = 450$ のとき	$(a, b) = (3, 3)$ の 1 通り

したがって,  $X$  の確率分布表は, 次のようになる.

$X$	0	50	100	150	200	250	300	350	400	450	合計
$P(X)$	$\frac{1}{64}$	$\frac{3}{64}$	$\frac{6}{64}$	$\frac{10}{64}$	$\frac{12}{64}$	$\frac{12}{64}$	$\frac{10}{64}$	$\frac{6}{64}$	$\frac{3}{64}$	$\frac{1}{64}$	1

もらえる賞金は,  $X|n - 2|$  であるから, 賞金が 500 円以上となるのは

$$n = 4 \text{ のとき } X \geq 250$$

$$n = 5 \text{ のとき } X \geq 200$$

$$n = 6 \text{ のとき } X \geq 150$$

よって, 求める確率は

$$\begin{aligned} & \frac{1}{6}P(X \geq 250) + \frac{1}{6}P(X \geq 200) + \frac{1}{6}P(X \geq 150) \\ &= \frac{1}{6} \cdot \frac{32}{64} + \frac{1}{6} \cdot \frac{44}{64} + \frac{1}{6} \cdot \frac{54}{64} = \frac{65}{192} \end{aligned}$$



(3)  $X$  の確率分布表から，期待値  $E(X)$  は

$$\begin{aligned} E(X) &= (0 + 450) \cdot \frac{1}{64} + (50 + 400) \cdot \frac{3}{64} + (100 + 350) \cdot \frac{6}{64} \\ &\quad + (150 + 300) \cdot \frac{10}{64} + (200 + 250) \cdot \frac{12}{64} \\ &= 450 \left( \frac{1}{64} + \frac{3}{64} + \frac{6}{64} + \frac{10}{64} + \frac{12}{64} \right) \\ &= 450 \times \frac{1}{2} = 225 \end{aligned}$$

$Y = |n - 2|$  とおくと， $Y$  の確率分布表は

$Y$	0	1	2	3	4	合計
$P(Y)$	$\frac{1}{6}$	$\frac{2}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	1

したがって期待値は  $E(Y) = (0 + 2 + 3 + 4) \cdot \frac{1}{6} + 1 \cdot \frac{2}{6} = \frac{11}{6}$

2つの確率変数  $X, Y$  は独立である．求める期待値は  $E(XY)$  であるから

$$E(XY) = E(X)E(Y) = 225 \times \frac{11}{6} = \frac{825}{2}$$